特04
No 20416
22

自序

今春予こゝ堂の出て
宿屋に待
話を送く
るまゝ
港ホテルの
の雪浮
海のめ
とし



ひて行く者松本唱采
せぶるいたゞき体中大
に使まゝ
いて日好の
こゝ
明治三四年初夏

●第一席

ある片田舎にドウトランナヨランゼとヤ井お医者さんがありました。

この先生の村に金溜えとヤ井俄分限者がありまして、そこの主人只今不快でいらっしゃいます。一寸あなた者よんを使ひに来まして

先生ハ早速承知いたさき支度そこ〳〵にして出かけらき

ありし処へ折しく友人が要用の咄

ありてまあ〳〵き計らば門口で出逢まして友人先生ハ何処へお出かけにあり外るとい

先生「金積氏の主人病気につき、こゝより往診し申と述べました。スルと友人「僕ハ先生に急に談じたことがあるゆゑ、暫くまちなさと止申と先生「敷宅入りて一吹しなさるゝと云ひて、行きうけ申ゝこゝろハ病気ハ例の宿痾にて危険の症でハありませんと申し申と先生「否生が往診をいたすゞ申ハ行うぬるに彼が病気ハ快癒にゝを恐れ申のじゃ

●第二席

甲「ミなさんが、アヽ持ゝいナアと、お望こゝなさるお方ハ一人もゴさり申まいが

さりとてゝきを無くしてしてゝるゝよいと



おゞし切きの出来ませぬものハ何でたう中てゝ頂覧。

ヒミナ〳〵

「コーツト。

甲「分りませんか

元頭でゝ

●第三席

夏の日片山里にて、上さんがこゝ三人昼休をるとて寄ろうとていろ〳〵咄しの末一人のお松と申さんが「アノお梅さん何如云

もの〻ごとしの処の女ハもう怠きがちゃくッてなことに困け升唱哥の
音節ふどハ度々よくこゝろ
ゆ〻しく教へさことハ
昼ごろにおり升と
こんな怠きて
しまい升よ
お梅〳〵そきハ
そうでございい
升とゝ手前
処の娘さん
どハ仕ふらゝ
お娘さんよ
ハズット年

うさでございい
升ゝきど毎
晩どこへう
するのうさし
て夜更に
ゆりて来升
〻〻まい
何処に今すで
居つゝとゝひ升と
モー居〻処も何も
かも怠きてしまいよして
返答がでたません
ウー

◎第四席

ある田舎の村長さんの宅へお医者さんから藥價の書出しをもちてお医者さんの呼へまする

かまるくまして在村長さんハその書出しを

うさして村長へさて先生私の愚息がこのさびそびめて痲疹をハそづらひまし

てそきよう近辺の子供に近所うつうまして皆くる先生のお世話にちうまし

た

が元を弱る

とたくしの体

が先生に病人の

ご周旋もうし上げ金もうけをおさせ申したこゝがらでにうらハンガク

ナント私ともの藥價を半額におさけくだきらん故カ

●第五席

都の人が近國を遊歷さんとて女夫づれにて出かけまして、ある國の川むたの堤の上を歩行て居り外ぐち何いふまづこやら妻君がなやまつて川へザンブと落ちまし

た亭男ハ大いにおどろきまして男〜ヤアーしまった〜神さんも仏さんも何卒もや〜おまをくひ下さい南無いあり法蓮陀こんぴら佛さま妻をたすけ夕〜救ひ夕〜と頻りにいのりたてまして〜ヤツトのことで助けなをして男ハ妻君に向ひ男〜もし今まで

へが凝きて死んでしまつたら己ハ何しまうと思つたよ。モー〳〵こきに懲々してごの後ハ決しておまへに財布もたさないよ

●第六席

田舎の信者が宣教師の子息にむかいまして信者〳〵コー坊ちやん、お家ハ何お子れて神さんの悪しきハいつたい神さんハ何処にござるものうむふしてお家ぜあ而うきるとこの桃を五つ上るゝ子息おまへ神さんハ何処にお在でまさらないと云つてお見ナ桃を十個上げ升う

●第七席

労働社會のものが三人よう合さして。〜オイ八公

己らよんべ竹の野郎めが

天秤棒で貴さを

ぶちころしてしまうタと思

つたが。よく

殺さき無

うつて好ろ

つたナア

八公〜ソーショ

ころさき無

うつたが己ア



ラ。ちつさき殺

さきたら可〜〜

トおもふよ。

〜ソラ何

ぜダつ〜〜

ネイ貴様

ちんぢンナ

に死ねたが

ノダ〜〜ダッテ

ちのさき己が殺さき

りや竹うやろハ殺しダ

スルト彼奴ハ獄門にする

だらふ那奴がそう獄門にする

曲を己ア見タイらゝさ

## ●第八席

なる入がお螺と云ふ嫁をもらひましたがこの嫁はその名のめく何うにつゞて螺を吹きましたがとりあへず自分持参の荷物をんどハ大変うけ直やて自慢し外うら亭主ハ

なきましてそのゝを老母に出しました亭主どうもお螺にハそるいくせが

なるましてよく虚言をつゝ

そこゝゝけ自分の所持品の直をつひ外とそきいく

いとく層とうけて云ひ外ぶアンナにうけ直云ハいでも宜さそうあもんでたぶイヤ早こすった難作ものでと申外と老母いさたが老母だけにて

頭智よく答へ外にハ若母〜おさへ。お螺にてゞ手をとゝあし
させて見ナ決して掛直ハ云ふまいヨ

●第九席

汽車の下等室にて乗合の連中が世間ばなしに〜コー
アフリカの国でハ人の肉を食い
殊に女の臍の下の肉と
大に珍重して食ふ
と申し外が
実に奇代
でなりません
ろ〜〜ナーご
そを式のこと
ハ奇代でる

何でもなりません人の肉を
食ふものハ東洋チャッパンにも
たいさんなり外ヨ〜〜馬鹿云ひなさるなチャッパンハ目
下駿々として開明に進んでなり外ハ何んでそんな野
蛮なことをし外るものゝ〜〜デも新聞やハたび〜政府

の風を食ふじやうまでん

●第十席

ある人が余所から音物をもらひすれば毎ごとに
うるさくば返礼に品物を贈りまして
そが児に云い
すしみたい
父〜人の
つき合ハ
向ふより
ものを貰
いたるとき
ハうるさく

うるさに返礼を
するのじやぞ。
もらハるるを
まるるにハ及
バるんがと
すみと
小児〜ソン
ナラ阿父
そ余いが嫁ぶん
をもろふてる
婚礼の引出物
を阿父に呈上あいヨ

父〻ソリヤ何ゼダ小児〻ダッテ阿父の場礼のときお引出あつを坊に下さらあいもめと

●第十一席

なる夫人が下女をもとい入きやうとしまして諸方へ口をとゞけておきましたら多人数がおいでお目見えに

すのでありました夫人ハ一々その女に名ゞ付に

ハ夫人〻おまへハ先う

主人〻何姐お暇をおもらいたエと思ひたゞし升と下女〻なんでもおいへさんが気があい姐と云ひ又い〻且那さんのつゝひやうがきびしい姐と云ひなるひい〻お児たちが沢山なつて

居らきすぜんとの定文句でしてきとる。こぜん終に來さした一人の色のくろい鼻のひくい下女ハ阿容〳〵するゝしき女〳〵をたくしハ主人のものを窃盗さして暇が出ましたのじやと云ひ外たらゝの夫人ハ。たゝらゝ容子もなく云ひ外にハ夫人〳〵するしいモーおすゝを來て。もらゝにきめます。こぜんおすゝが正直ダカラ。

●第十二席

なる官倚うは役人さるゝが今度の地震に四りおとさきさしさゝそのの友人の鱈倉さんがこのことをはずきにちりさして。さぞなの人も落胆失望してゐるだらう一度いつてるくさめて慰ろふとて出ろけてまゐりまして。タラ倉〳〵小生が君が免職におろうのをいまさしたが実際でしたゝ免吏頻間〳〵サヨウは説のあり免の字をいさいきさしたタラ倉〳〵ソレハ



何んとも。さぞご不本意千万あるさうと。今日さざ〳〵君を慰問しやうとおもつて何ひさした頻間〳〵ソレもまことにちりがたう。いつもゝうらぬ厚配感謝に堪へらきすぜん鱈倉〳〵こきゝう囲碁でもしめて鬱散さしてハいゝでしたトンマ〳〵イヤ鱈倉君碁実ハ免職にあうさしておもも荷をおろし却て安心いたしました。小生モリ〳〵ホントニつとめハイヤにありました。なんに何うするつもりがなるあら実に官員さんどになるものじやなりませんヨ。小生もモーー般人民のやうに自由のうらだにさして窮鳥籠裡を脱したるやうあこころもちでしたと平気で威張てすゝ外と。タラ倉君ハ膜のうちでハ負をしこのつよい奴ダと。おもひ外さが。口でハ。さゝが先生だけなつて胸中感服のあしと云て碁を囲をおとして。ゝましたが

もゝく頭間さんハ復職仰つけらきさして大によろこび財
産いたさきさして毎日〳〵いせんの
ごとく出仕に
ふりすたるを
タラ倉さんが
すゝきさし
てうの屁
をしこ奴
が先日の
廣言にな
そちらよく
おめ〳〵再
動しとつ



タ今日こそ捻ちなけて
このなりだの返報して
うと頭間さんのやしきへ
参つて來ました鱈倉〳〵先生
この君小生うおもるぐさめやさうと
そんしするッさを。官途のことをさん〳〵
悪しく申すうしが今日再動ちさるハ
いうなるそけで申すると一本槍を入を外と頭間さんハ
海蛙〳〵として天窓をこッたいて頭間〳〵アヽこきも
君命ふきバ致方なしさ

●第十三席

英吉利ロントン市の町ちがきに丁度大坂の長町の
に掏児の巣窟がなりましさがるとき一人の少年が仲間

入りをさし〳〵きとやして参りました友。頭がちそく色
さしてそのもう、履歴をすぐきより仲間のものに一々引き
なハせいろく雑談の上
頭ハ少年に向ひ
さして頭〳〵コー
貴さまハ博奕
何うだ
少ツとハ
やるう
少年
〳〵やる処
じゃ、

なうさせん
モーそき
にうつて
ら寐ら、
喰つて
ゐるうも
怠き
頭〳〵ツイツハ
剛勢な
いめハ何う
ダ少年〳〵勿論
好物でゐる。頭〳〵酒ハ少年〳〵滴まいけぢん。頭〳〵ソラア瑕に
玉ダ

●第十四席

婆さんが一人つきたて寺よりをとてみちく咲しをいたし紙にかきしハちらこちらへたびく嫁入りをいたしたよしたが

よい男ハもちろん以よい姑にハ一人もでなッたことハなり

又今ハ快にたびくよめを貰ひもよしたが一人も気立よい嫁に出ないハもんワ

●第十五席

井田舎の勉強家が荒地を開墾いたしまして田畑がたくさん出来まして。その村一の豪農となりましたがこの〳〵びと金力にて村長に撰挙さまそのの就職のふきあげとし村中の人々をまゝき大酒宴をいたしましたがよひく酒がめぐり紙につけて面々得手のかく

し藝を（日本でゐらカツポレジング。權兵衛がたまゝ〳〵へラ〳〵踊りするを演じて）こゐ〳〵奥に入りましたが籔の畑太郎作さんとヤみお百姓さゐに目ゐらしきゐとやつて唱采を博せんと

いろ〳〵勘考の上給丁にむうひはして太郎作〜コレやぶきた帽と古い蒜がゐるゐらこ枚貸して下さらんうとヤみと主人がいらに居てこまきとすはして主人〜アタ汚穢しいこの席で

左様なものを何すると咎めます。太郎作イヽエ貴君の仔幼年のころの真似（乞食）をいたします。と答へます。主人は給丁に縄をとりませさせまして梁にひっかけ首をつりかけますなどろきかけます何でこんなことをなさるのじゃと異口同音にたずねます。真似をいたしますのじゃ。コレハ太郎作どの親父の

●第十六席

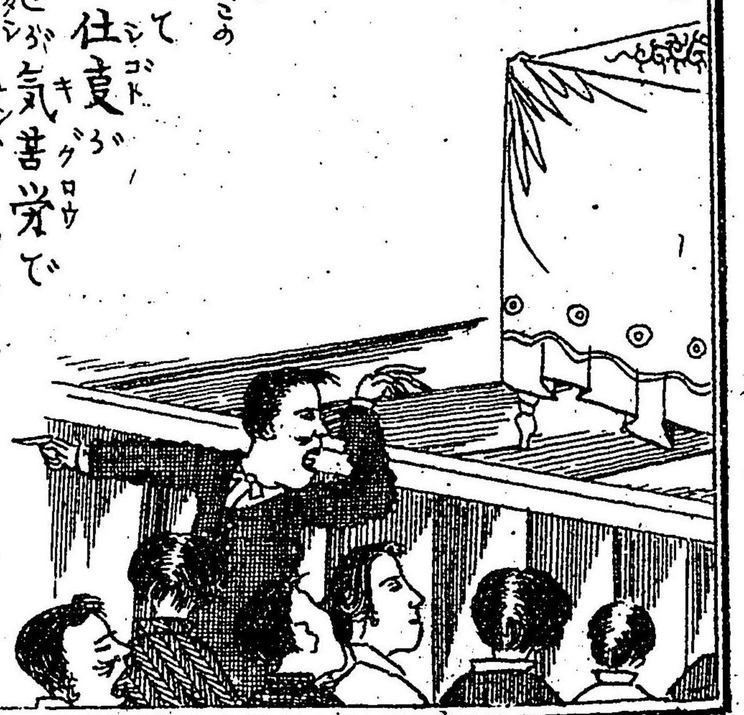
管乱会の会員にて中々名のきこえぬ人が風俗改良の演説をいたしましたがべん〳〵だら〳〵と長ッたらしくして聴衆もモー退屈いたしまして二人とただ一人になりましてこの人が欠伸しちゃらすてるのを会主は気をもみだしまして演説者全伴の人に、会主〳〵アノ先生はすぐとのくらゐ演舌いたさきみう全行人〳〵この人はアンナこと云ひ



の外とマー大丈夫三時間ばかり喋々ッテるまたテ会主〳〵ソラ大変が僕もそこを述べさいとがなるんだめだマー何したら好の人は演舌を止るデしよう全行人〳〵さやうサ何したら止メますせうマー針でもおいたらでも足でもついてそこでも止めますせうバそのの針でえぐッて見ましたら気がついて止めますせうと何なる演舌者ばかりうけると気ちがひのやうでばかり大体のコトでハ気がつかんせんと云ひますと会主は大いにようこんで演舌者のそバへ行きましたが暫くなるとまして全行人〳〵すまへ〳〵すまりましてやはり外にハ会主〳〵僕ハ貴君の仔細示教の通り針でつついて見ましたが先生をこしも感じがなりませんのでその針でつよく突くぐらいしたら針が折れこまましたが奇妙ふしぎにも平気の平左エ門でまつてるハ何したもんでせ

う」と肝をつぶして叫し抜と。その全行人の
とろうに居り
升人が〜ソレ
ハその苦さ
なる人のこちら
うの足ハ悪
癖ができて
切てしまい。
その抜へゴム
で拵へタ
もんでたら

●第十七席
渋川吝介といふ
仕立やがありまして
たがこの吝介ハいた
つてケチンボで
ましたが日職人
の小狂勇七とヤ升が
昼飯後の休みの時
勇七が吝介にむかひまして
〜親方ヱたしハモー仕度が
だきませんと思つて。そきぶ気苦労で
ありますよ。そのうけハ私ハ何だう目がつぶきさうでだろう
吝介〜ソラ何したんダ真個たすんハ仕度もよく出来るに



ソンナ事にまつさら乃互にこする ネー併しおすの目ハ何と
もないじやないう勇七〜ダツテ私ハお昼についてなつさした
肉が見えませんデしたものを」と
ナ外と喜介ハコイツハ下物う
肉がなすり小さい
ゝらこんなる
云ふにちがいハ
あいと早速
こゝさして
その翌日
ゝり喜介
ハ妻君に
云いつけた



して肉を非
常に大きい
に切りそき
を極めて薄
く剥き皿一
枚に引のばし
つゝて出さ勢
さしたら勇七ハこゝ
をゝるゝり大におどろいゝる
風情にて突然ナ外に勇七ハ急に目が
〜アゝうきしい〜私ハ
よゝありましたよ以前ゝりハ一層明瞭ちゝ
ました喜介〜ソラ何云ふとけで勇七〜私ハ肉の上ゝら透して

皿の模様がよくそてるやうにありました

●第十八席

印度ゝゝの山中にハ大蛇が沢山居り夫が夏の日一人の僧が山ゝを通りましてなるほど熱さに堪へらきませんゝゝ。木蔭でやはんでをり外へうちうつゝと眠気をもよほしました右知らぬ〳〵熟睡しました

スルとそのゝゝゝゝ。ゝらの松の木の上ゝゝさも大蛇がおそろしき

ノソリ〳〵おりて來ましてそのゝ僧を丸呑にいたしました僧ハ大蛇の腹の中で気がつき大におどろきましたが幸ひふところに巴豆丸をもち合せて居りました故そきを胃のうらてへめ〳〵くりつけ杖と大蛇ハたちまち悩乱して。ゲロ〳〵と吐出しましたらゝ僧ハそきに舟いて逃き出ましてー命恙なきを得ました。さてその後さ

他の僧がその木の下へ來て憩みましたが大蛇は木の上より
こきを見まして、ぎョットしましたらだん〳〵逡巡して外にハ大
蛇〳〵アハ劍呑〳〵禿頭大毒なり

●第十九席

東京有名の代言人に早井勘三と云ふがありました。
これ深川において強盜がつゝきましたでこの盜人公判の節
その辨護人がありませんでしたらば法庭より右早井勘三
さんに辨護を命ぜ〳〵きまして判事さんのやさき外にハ
〳〵して今回の事件についてハ被告のために最良の助言を
罪人にたゝへよと命令がありました。さて早井勘三さんも
罪人と相談打合せのため別室に退いてゐましたが法庭
でハもちろん開廷せんとて小使をして兩人居り外別室へ
よび出しましたゝハしましたらゴハてもいろに。その室にハ早井勘



三たゞ一人むうりみ罪人ハ何処へいつさう影だに見ません
小使ハ大におどろきまるがら早井氏をつゝきて公判庭へ出ました
判事〳〵その方の弁護致ス罪人何に居るにやとのひまんと
さそうでいらゝる罪人ハもちやいづきへ立去りましたとのすて判事
さんハ肝をつぶしてゆ外にハ判事〳〵ナニ立去ッタとあ此ハ怪しか
らん罪人をたゞしたるハいうちる所存なりや早井〳〵さやうでいらゝる
閣下ハ先刻拙者に弁護を命じに相成し時さんと
おりなぜらましぞ本件についてハ何なりとも被告に最良
の助言を与へよと命じでハありませんゝ為に拙者ハ被告
とともにお室にありそき被告に罪跡を尋ね外と全く強
盜いたしましたとやましたらば拙者ハたゞちにお室の窓をひ
らきこゝをとびこえてもやくにげろと助言いたしたに相違こゝ
ふくれこゝき被告にとりてハ最良の助言でハありません放や

ナヨシた

●第二十席

なる華族さんが給丁をおきましたがそのボーイが年はとろく
なく升さまの利口なものにてよく働きます
確大に夫人のお
気に入りました
ていつもこまを
褒めました
夫人〳〵お
まへはまことに
よく気
をつかて
おくまダ

よつて。ホント
によろこんで
る升褒美
に何ちゝと
嗜好ふも
のなげるに
よつて遠慮
ふく云ふが
よろしいとけさ
き升と給丁ハ
なぜがたいと云ふえを
いたしまして口のうちでモヂ〳〵して申升にハ給丁〳〵二番目が
清でゴザイヤス

## ●第廿一席

西洋もひろくなりまして何きう國うなどでせんが王族のてう君に馬鹿で物好なる方がなつたと思召せその頃そが領内の村に赤手で鶴をとらへるおやぢがありましたがうの馬鹿君ハ大に喜を奇とせらきそのおやぢを召ききましてとらへる方法を尋ねきましたスルトおやぢがヤ計にハ親父〳〵へイ〳〵別段うハりまして方法も仍ありません先うやうで仍ます外にハ青い服帽を着まして田のミちを四つ匍匐にまつて御ありまして後うらソツトとらまうとうやいたします外と千に一羽もとりにがしません こきハ鶴がなをいまを捕をえて草とおもいにげませぬうでスとヤ外と馬鹿君〳〵うまい計予その方に授いけてこきとそこまうとヤさきまして。ソコテ一呼に野へ出らきまして外とおよく一羽の鶴がおうてゐまにゃら馬鹿君もなをい服をつけ。なをい帽をかぶりておやぢの見



についてやるのきまして。おやぢが一寸念をおしまして外にハ親父〳〵殿下うをておことをうヤなげおきまして。たとへ何んあるがなりましてつしんで物云ひたくなる鶴がにげ外うちと外と馬鹿君ハ〳〵やうちだ〳〵ソコデ供さまうの人々ハ堤めうけまして。唖の集會えたまうにだんまうにて和ておりました。さてそこまうおやぢと馬鹿君ハつるを目当てにそろ〳〵這ふてゐまうまし。だん〳〵と鶴のそばへちうづいてゐまうましたが時もとをとて。形ちしく。スート腹のふうの鬱気をもらしましたが。その臭気をあをだしくなりまして。おやぢハ自分より出したものデスが臭くてこらへちきませんうらそのの的にまつる馬鹿君ハ何んなに臭うろと。おもひなりまして外と勿体なくも又大におそろしくなやまうと思ひ計きどもまして鶴をおどろうしヒヨツ逃したらいうある咎めになハんうと安きこころハあくいがハせんヤて

とッつ。おいつ。思案の末
そろ〳〵らしろを振り
むきまして一向拜ミまと
馬鹿君もダンマリにてたゞ左の手にてゞ鼻をつまミ右の手をバ

右左りに振りまして、ろまハバに行けく、の手真似をいたさきまし

## ●茅ヶ二席

イキリスのロンドン市ハ天下無双ぜんしゃうあ場所ヂョでスが公然遊女やハ密賣婦の所ではなくて日本大坂のおこなハるゝこと甚しく日本の千日の十戎女もそだし逃げると云ふいき目ひでにが

なる活板屋の職人がうつ
密賣婦に手をひきまして
私寓子の
家へまゐり
ました
スルトうの
職人が寐
臺夜具
などをわ
よハしまし
てヤミにハ職人が
コンナ不潔な



所で寐ちまる
ものカイ」とヤ
ミと女〳〵お内
と思ふて忍へて
おくきなんし

●第九三席

なる処にそう女夫が二人寐して
ありましたが（コレハゴ丁寧）そう女夫の
〳〵ひとて毎日〳〵互にイチャツキなつて
ありました女〳〵そたいハなるべと初めて添ふた
とたハ。どうぞ人ダとおもひましたワ夫〳〵サウサ己ハ。はさ〳〵と
そハ。ふい前ハ非常に人がようつ。ふおまと添ふてうら己らのよい
性質ハメチ〳〵につぶさきてシマッタサ

●第廿四席

美婦人がきものいとを着飾つてすがすがしみ浪よりもうい人をちが唱采してナポレオンの神耶仙耶いのちをうめと云ひナポレと美婦人ハ下女をうへうそはして美婦人のうの人たちハ何を云ふてゐるエ。

とゆひナポレとこの下女もすこぶる別品

でたらう下女ハ

懐さんハすでハなうすせん

●第二十五席

アメリカのニウヨルクに有名ふ齒科専門医の先生がうなりましたがある夜赤青の二鬼が拘引状をもつて冥司よりの召換なりとナポレと先生びつくり仰天してびけんと弦しみすらこ鬼卒ハ尋常にいたせと縄をうけさして閻王の廳へつきてりき大なる御殿のさへに跪ついさきさした先生ハ大におそきてちぐうすつて居ナポレと閻ナ王ハ釣鐘のやうふ声で王へ汝山子医者三寸の舌を以て人をたぶらうにこと夥多ちうよつて梨舌

地獄へおとしたべしと大詞すると先生はひらきせんと強し
れどころを鬼卒が引たてれうら先生は誣枉をうらみ
て号泣し天を仰いでやれにハ先主〜アヽ寃なる哉小生世に
つて人のために口歯の患を治し〜〜よ所ハ月々千をもつて
数〻の辯口をもて薬を販ぐと云へども〜いまだうつて害を入う
貽さば仰ぎ願ハくハ大王昭鑒を賜へと手をかハせて。アリく
と泣ける大王をこしきがんがちるり。ゆひれにハ大王〜汝よ〜
齲を治する乎」先生おそる〜
答へさしたにハ先生〜小生
秘薬の歯
につけて手を
拍ちれきぞ



ひいきに
應じて
ときおかち
拔けア
ソンテ
も痛まば
ぜんと
と大王大に怡
びまして大王〜
四るにさいめ朕
が歯を治せよ
とやさきれと先生ハ
へイ〜とやまして立うけれきどうち恐しさに逡巡しまし

たとるとお側の役人がもやくせろと責つけみらう止ことを呼びソロ〳〵お膝本へるざうりはして仰見ぎと髭ぼうく〳〵として玉池ハえそまんうらコハ作臂をのばしエして指先にて口の中をさぐりはしたが鼻を撲ってたゞうぞんスルと内君の色にて曰ノ狂夫何をいる

●廿第二十六席

西全紳士が情婦にむうひはして紳士〳〵おエ〳〵ハ絶世無るるの別品さんダ

〳〵アラいやデスヨ

茅先日先

ゆうりでソンナヲ

仰て心ハ



中でゲナして居るる

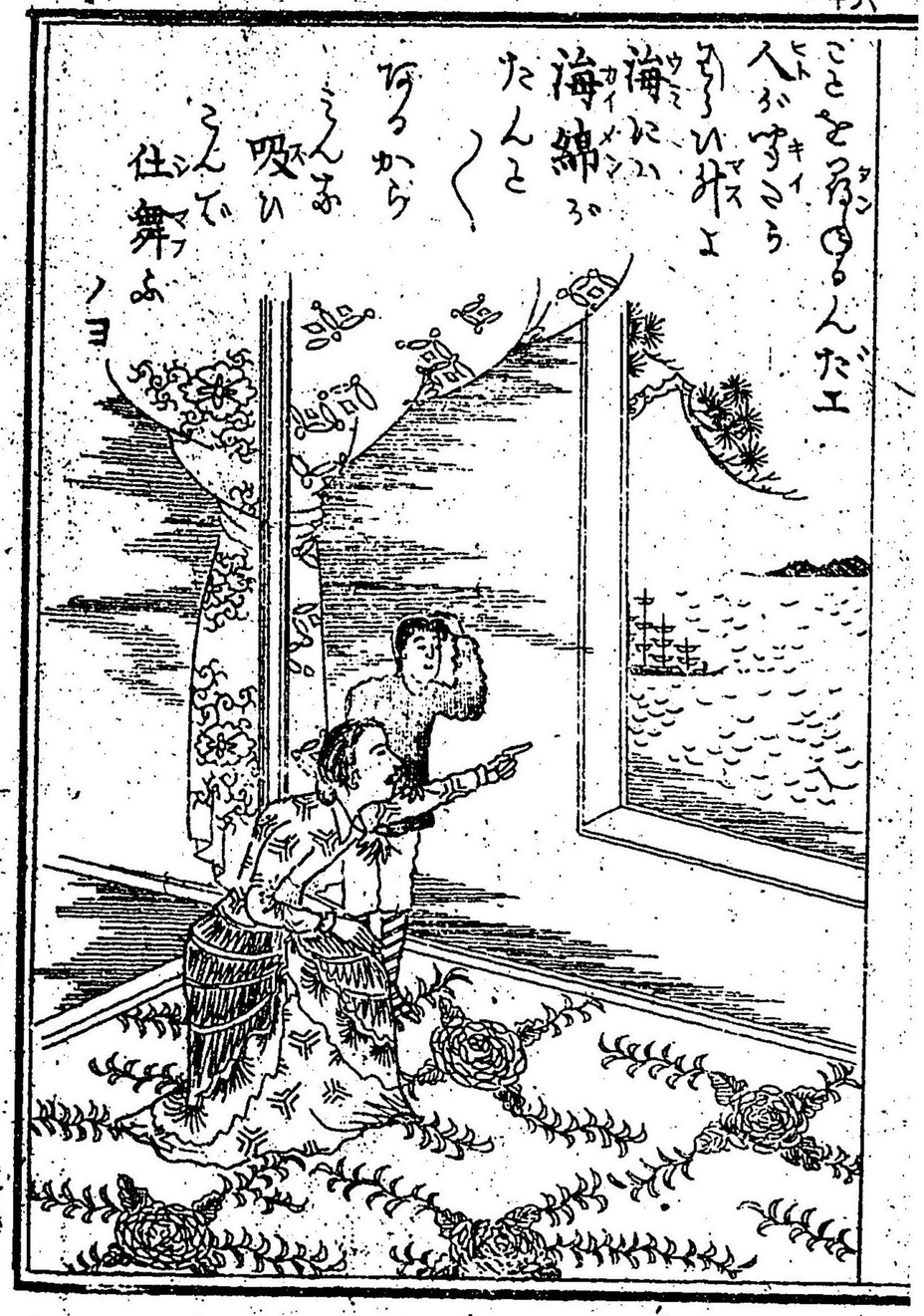
人デショー

紳士〳〵いやサ予が云いでもおエハ心の中でサウおもってるデシャウヨ

●第廿七席

お母さんエ川の水ハみんな海へ流るきこむと云ひみがんで海のこづハこゞ色あいダーやう〳〵ネーとたづるうら母おやハ母おや〳〵オヤマアこの児としたとぶソンナ分り切る

ことをゐるんだエ
人がすきらう
もうひれよ
海にハ
海綿が
たんと
なるから
うんを吸ひ
うんで仕舞ふ
ノヨ





●第二十八席

なる親切な人がもハや死たゝうました友だちの病気
すのうまして、その枕もとにいたりいろ〳〵ぶぐさめ
ていた病人にのひ升にハ友だちイヤこゝもなきらめるよう
仕方がなりません。ろうし貴君にハこの学のぶごうに最ち
惜しいとおもひなさるものハ何んでせう〳〵ネーとや升と、
病人〳〵さやうサ命でゝ

●第二十九席

なる田舎に甚八とヤ升夫とおをけヤ升ものと二人
が牧羊を仕そこに居り升一匹の女羊が子を生
ましたゝハつゝことにハその子ゴがなたまうら都うら手足
までソツクリそのよい人のうたちでなり升うらこゝを足ふ
もうハ誰でもおどろきなやしさぬものハなりません。スルあ

女夫二人ハ二
平氣の平
左ヱ門にて
ナ外スにハ
女夫ソン
ナに怕つ
くらするさ
んナこき式
のすコトふしぎ
でも何ナんで
もかうせん
此奴ハ紙屑
といろふて食



つたんデスヨ

●第二十席

なる理学者の説に
もしカスきバ氷のかつさ
ふ二寸に達したるとき
一人の人間を支へる
ことができる転じて
サウデスが成程至極尤
ふことでございます
ネイと
哈し外と一人ぶん
そきハ尤
ふ説でスるするそきむうりじゃ
あうらうと思ハき外ふせあきバ暑
中にさうり外と氷やの家族とのこらバ

考へたらうサ

●茅州一席

警察署の長が馬丁が安飲やにて酒をこたい者と酒と下物の小皿もりと命じ身に権威をさしてさそのさばり馬丁

傲然としてやれにハ警部公

己ハ某の警部ダ

のかん馬丁さ自ダ

酒のむうりハもち

ろん小皿のもり

やうに仕

注意

せよ



●茅州二席

贋作品を賣り

さばきれ店さ出へる

客人が來ましてがちち

こちらそまハし指さしまし

て客人へオイさの品ハ何をる

ものかとひれとこの店う番頭さんか

いまで新聞をえで居りましたが

よくりけちから番頭へイ入らしやいまし。その品ハ

賣るものでございやす

●茅州三席

ある金満家のおやぢう恐しい吝嗇で塵一本にても

人に呉ることハしません。その家のおく庭に池がなすまし

たゞ蛙がたくさん居りまして。
一向やうまくてだまりませんでしたが。
たに別荘をしつらひ池を堀りました。
為めに客番やへ試みに入を出かし

まして蛙をもとめ出とおやぢが下男をよびさ、やいてやつけ出にハおやぢ一人最ち小いのを取つて一匹出さ

●茅屋四席

月ハ入りまして、なやめもとろぬ真の暗でございましたが足おとこしりくさせまして雲つくむうりの大男大長刀をさげまして豪家へおしいり金の番いたし外番頭を土足を

まつて丁と蹴おこし盗賊〜コリヤ静にしろ。こりやヤイこの金庫の金を事とそろへて渡しやカレさおどしうけ外と正直一遍の番頭さんハ真青になりハ番頭〜ナヽ何ヲヌヽ吐しやがるんだ。こりオヽ己ノメヽ目玉のくろいうちハウヽ奴らにワヽ渡にものうい金がほしけりやオヽ己を殺して取りやがれ盗賊〜イヤサ子他賊とちがい温厚篤実の君子あきバ汝らをころしに忍びんやさとてもおハ談合とやらナンと番公ろうしてくれまいか貴公が己に有金をソックリ渡してくれまいバまゑ公ハ岩ろうナア山分にしやうぞ。サヽ金をこゝしあさい番頭いやだヽヽおヽ金がほしヽヽハ己をこハがり麻酔剤をのませて気をうしなハせそして渡に取うるサイ」とこゝまでうを低くめて〜その押入の中にモルヒネがヽ瓶なるヨ

●茅州五席

いづきの国にても流行の衣服を着るをこのまぬ所ハなりませんがそれでアメリカ人民ハ甚しく何ぞすくそハうの人民ぶ今日頭痛をそれらハしかし大問題とナリるハ春にハつたら何んの衣服をきる

ら呼うらうと云ふ心配でハちうをデして、何うしたら衣眠をこしらへることが出来るでハちうふとオ金の工面でハちと

●茅州六席

ハの町をつきにそふて狡猾な少年がハちうをして、その隣家の嫁と密通いたしたがハる晩夫のふ左にふしをしてその嫁にちひ何うおもしろさうに咄のまつ最中へ亭主がにハうに戸をたゝきましたスルと少年ハ大におどろきましていふ、せんとき次が狡猾ふやつも



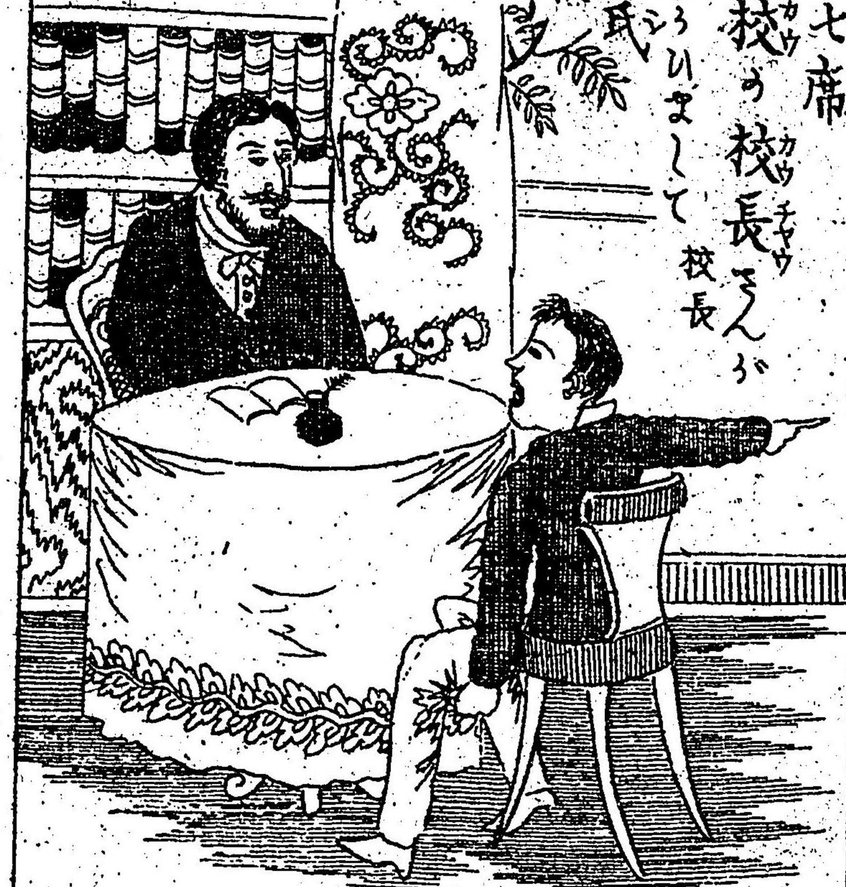
うろたへまして婦ハおちつきをへうと云ひ出たハ君気がうひしちさんふ乃でべチヤ〳〵さへやきまして少年ハオツト承知〳〵と云いまがらうちだと小さういたし婦の後ろひッついてすゆうさて

戸をひらきますと婦の右のうしろより本夫がたいりますと少年は左の方よりソッとあけて出ましたもとより小灯もつて居りますせんうち夫は何んにも知りませんでしたるに少年はうの際ちかくにおいてごまかして寝室の上へシガル入をとそこにきて来ました右におもひ升にはうの亭主は己のシガル入をよく知つて居るうら恐らくはこまたようてうのこと発覚しそうとおもひましたが忽ちこ計をおもひつきひきへしその家へさんじまして本夫ともふしのついでに少年へこの頃なる村の男が隣のよめと女婦通せしが亥夫はそのねぶいす上へ合財ぶくろとそこにきたるにようて本夫の知るところとなりつひに官にうつたへらきましたとけ嬢のうたはらで少年にきをさとり少年にむうひ目くばせいたしますと少年は安心してでいはきました。



第卅七席

なる中学校の校長さんが生徒にむうひまして校長野良倉氏君は昨夜新成楼上において酒をのんで居つてと云ふ風説がなりますがいうぐでいる。



野良倉〜いろにもさやうでござる　校長〜その上深更まで、談
機に居らきれよしいうばでござる　野良倉〜いろにもさやうで
ござる己をひかざる義なれて居りました　校長〜シテ己をひエ
ざる義とハ野良倉〜そハ別儀でもござらぬが談夜ハ教
師諸君四五名が小生の席の家宅において呑んで
ござきたあエもし小生が酔〜ふとすきばその
すきばすうすせん　あエに己をひエば　教師の酔〜るを待ち
て保文

に及びましる

第卅八席

七月の中ごろ暑熱すること
もだしくていたりません
ころでしたが
ある人ろ懇親
會をもよし
ましてその席
へすきさました
大慾だりのおやち

がつたとおもしめせ。そのおやぢが銭のいらぬ駄賃
ダとおもひはして喰つさとる〳〵うつぶきやく〳〵と口
ろらこはきるはどつめうけはして帰宅いたしま
たが、何ぶんにもつさのひどい時ぶんでずうら苦し
くつて〳〵こらへらきません。ソコテ窓のもとへふせりは
して下男にたのうがせはしたがそきでもヨ常のコト
でハ利ません。うら今少しカを入きてたのげ〳〵
と責めうけさしたゆきさど下男ハ。とを腰のところへ
おはきい團扇をもつて。なふさきみなる右手もあそ
しびきるやうでなつさしたが力ろきり根ろきりなふぎ
さした良久〳〵してこ吹させはしてやがに。親父〳〵
大にご苦労〳〵よつはどの楽にはつた。汗ハ何処へすりぬ
て〳〵すつ〳〵下男〳〵ミンナ私のこ〳〵だへすめ〳〵ました

第卅九席

油画をしてゐる人がなつさしたがいつも好んで鷺を画さしたアルヒイサジン

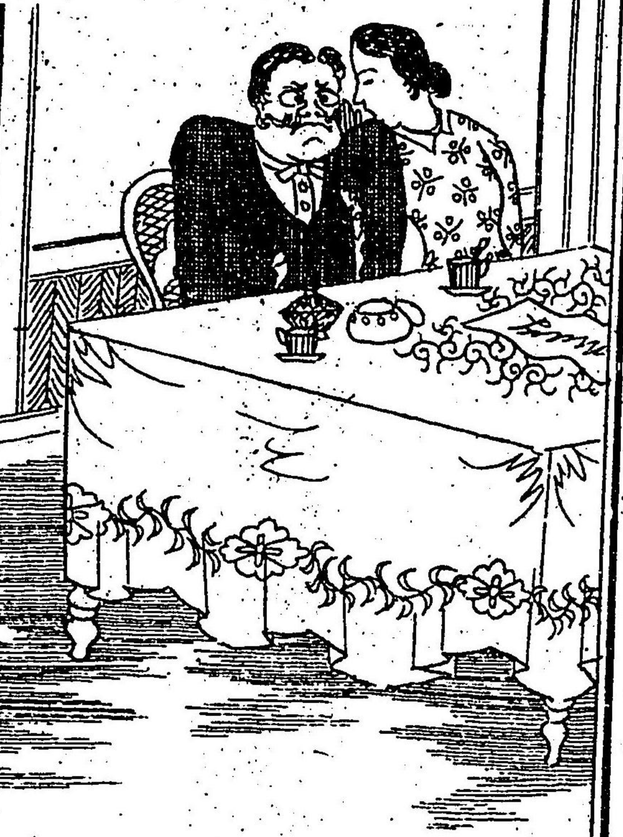
一日友人と野外散歩いたしみとこの羽の鷺が飛んでやあるさしたゾコデ

友人が〻貴画真にせると誉そやし称と画人〻アノ飛やう
ハ。マダアヽでハ無イテ

第四十席

ロシヤハ廣い國でこゝら文明國とハいへ。一文
不知の文盲人が甚ぶ沢山
なるとヤ外ぶ全国の
片田舎に農夫
がなりまして。
そのおやぢが
自分の字の
よめぬを
後悔い
たしまし

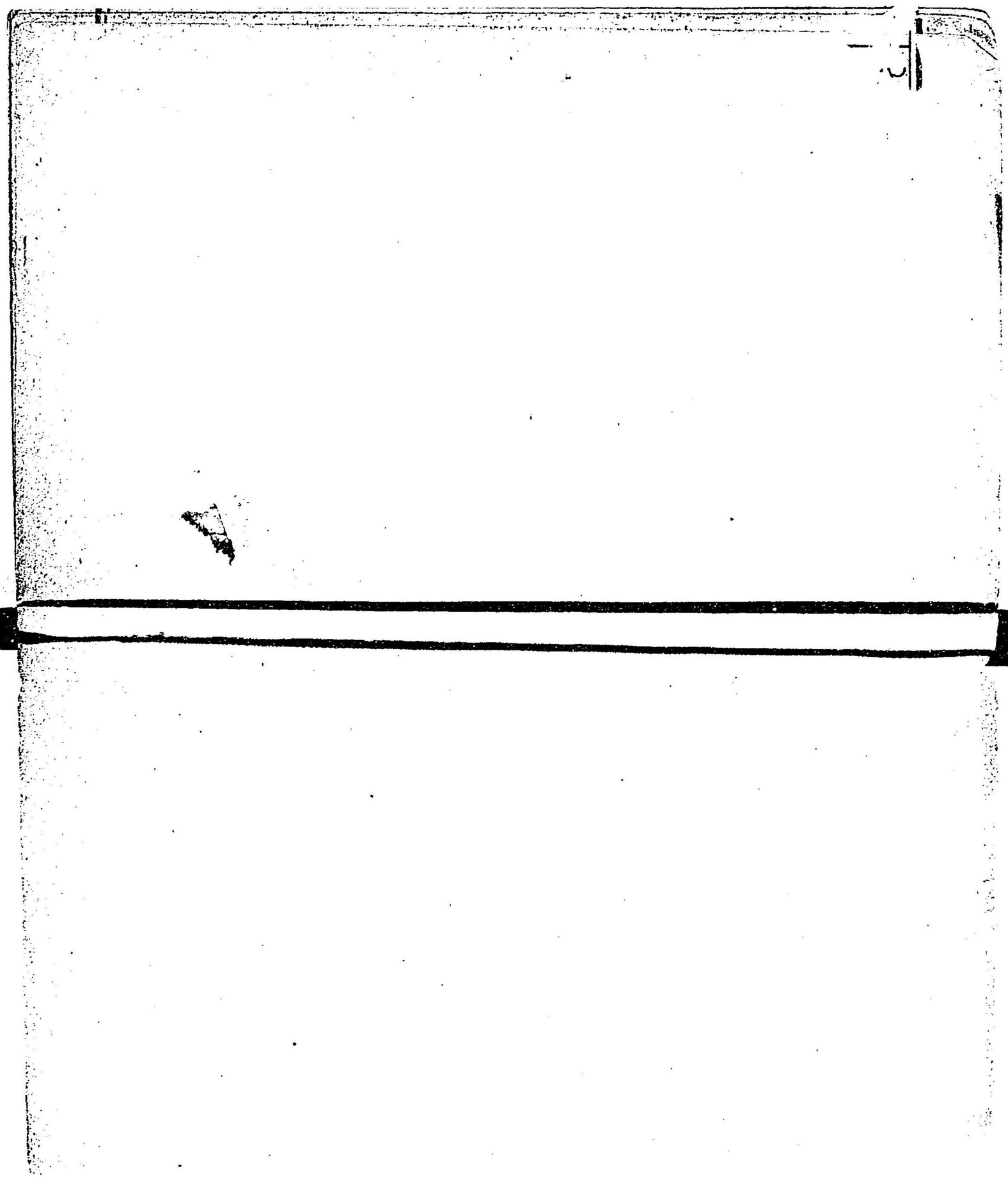
てそが子にい
やうまし〻
云ふて愁嘆
古させと
子〻阿父
も子供の時
字をよく〻ふハ
厭でアツタ
ふにとヤ外と
親父〻己の子供の
時ハ大に勉強し
たワイ子〻阿父嘘々〻
すぢ大にいうヤ外と子〻阿父そんならその字ハ何と書くと



扨Tabacco.めと字をうき外と阿母がおやぢの困るを見まして烟草をこすつまくり撮んで見せ外とおやぢ傲然として親父たバッコスルト子がゆびさしWine.の單語を記るして示し外ゑおやぢハお内儀の新しう見つめて居り外まと知らぬ品がなくまんうら耳に口をよせして内義へ良人へ一番おもしろおもものと外とおやぢハ子を叱りつゝまして親のさへでソンナこと書くものゝい。

明治二十二年九月二日 印刷竣功
仝 年九月十日 出板
定價金三十錢
編輯兼発行人 大坂市東区上本町一丁目五十四番屋敷 大館利一
印刷人 大坂市南区順慶町四丁目壹七十九番屋敷 此村庄助
賣弘所

版權所有



098084－000－3

特64－33

嘶のしり馬（西洋新作）

大館　利一／編

M22

DBT－0321

欠

MISSING